

浜岡原子力発電所 地下構造調査(更なる追加調査)の開始について

2010年8月27日

◆今回お知らせする内容

当社は、地下構造調査(更なる追加調査)について、これまで、具体的な計画の策定や調査の準備を進めてきました。

本日、調査準備が整ったことから、ボーリング調査^{※1}を開始しましたのでお知らせします。

オフセットVSP調査^{※2}と海域弾性波探査^{※3}についても、準備が整い次第、順次調査を開始する計画です。

実施期間は、ボーリング調査とオフセットVSP調査は7ヶ月程度、海域弾性波探査は4ヶ月程度を予定しています。

◆これまでにお知らせした内容

当社は、5号機の地下に確認した低速度層の分布形状などを詳細に把握するとともに、あわせて、その他号機周辺についても詳細な速度構造を確認することを目的として、地下構造調査の更なる追加調査を行うこととしました。

(2010年8月6日公表)

※1 ボーリング調査では、地盤に孔をあけ(ボーリング)、地盤を構成する岩石などを観察して地質の状況を調査します。さらに、このボーリング孔を利用して、PS検層や密度検層を実施し、地下構造を確認します。

PS検層とは、地上においた起振装置等により弾性波[P波(縦波)・S波(横波)]を発生させ、ボーリング孔内に設置した受振器により振動を測定することで、地盤内を伝播する弾性波の深さ方向の速度分布を確認する調査です。

密度検層とは、ボーリング孔に放射線源を入れて、放射線源から放射されるガンマ線の散乱強度から、孔周辺の地盤の密度を測定する調査です。

なお、密度検層では、放射線源の影響で、モニタリングポストおよび放水口モニタの指示値が、一時的に上昇する場合がありますので、調査期間のうち、密度検層を実施する日は、当社ホームページの公開画面上にその旨を明記し、指示値が変動した場合には、速やかに同画面上でお知らせいたします。

本調査に伴う外部への放射能の影響はありません。

※2 オフセットVSP調査では、起振車により地表で弾性波を発生させ、ボーリング孔内の受振器で受振ることにより、地盤の速度構造を確認します。起振車を移動させながら、複数の地点で弾性波を発生させることにより、ボーリング孔から離れた地点の地下構造を知ることができます。

※3 海域弾性波探査では、海上で発振器(エアガン)により音波を発生させ、海底の地中から陸地に伝播した弾性波を陸上(ボーリング孔内)で受振します。また、海底の地中で反射・屈折した弾性波を海底に設置した受振器(バイケーブル)で受振します。これらにより、海岸付近の地盤の速度構造を確認します。

以上